

(様式4)

学位論文の内容の要旨

氏名 中村 美香 印

Human Factors Affecting the Frequency of Incidents by Years of Nursing Experience: Analysis of Acute Care Hospital Nurses of Regional Cities in Japan

(看護師経験年数別のインシデント頻度に影響する人的要因:日本の地方都市における急性期病院看護師の分析)

【背景】

患者の安全は、医療の質において最重要課題であり (Kohn et al, 2000)、世界共通の重要なテーマである。わが国の医療事故の半数以上は、看護師が関与しているとの報告がある (日本医療機能評価機構, 2018)。看護師は、患者に直接的なケアを提供することや、複数の業務を同時にこなさなければならないため、他職種よりもインシデントのリスクが高い状況にある。これまで様々な医療安全対策が実施されているが、看護師のインシデントは減少していない。新たな対策を検討するためには、看護師の医療安全上の課題を明らかにすることが重要である。

ヒューマンエラーの対策として、これまで人的要因の視点から個人の不安全な行動を減らすことに焦点が当てられてきた。しかし、エラーなどが発生した際に、関与した個人が非難される傾向にあることが指摘され、近年は組織的な対策であるシステムアプローチが主流となっている。エラーにつながりやすい個人の人的要因を把握して、組織の問題として捉えることによって、組織的なサポート体制を構築するための示唆が得られるのではないかと考えた。

これまで看護師のインシデントに関する先行研究では、心理的ストレスや身体的ストレス、安全な業務遂行、仕事負担や多忙やなどの人的要因の特徴が報告されてきた。しかし、これらの研究では、インシデントを起こしやすい看護師個々の問題点を指摘することにとどまり、組織的な問題としては捉えていなかった。さらに、これらの研究結果のうち、経験年数を加味した報告は非常に少ない。一方、看護師のインシデントには経験年数の少なさが関連するという報告は多数ある。個人のエラーの犯しやすさには経験年数が関連しており、防止対策も異なるという指摘もある (山内ら, 1997)。したがって、看護師経験年数別にインシデント頻度に影響する人的要因を明らかにすることによって、看護師の経験に見合った、組織的な対策への示唆が得られると考えた。

【目的】

本研究の目的は、看護師のインシデント頻度に影響する人的要因を経験年数別に明らかにし、看護師の経験年数別の医療安全上の対策を検討することである。

【研究方法】

対象機関は、日本の関東地方にある地方都市で急性期医療を担う400床以上の病床数を有する3病院とした。研究対象者は、この3病院に常勤として勤務し、交代制勤務を行っている看護師1489名であった。調査期間は、2019年10月から11月であった。調査方法は、無記名自記式質問調査法を用いた。調査内容は、対象者の属性、過去6か月間のインシデントの頻度、独自に作成した「看護師のインシデントに関連しやすい勤務中の状況に関する質問紙」（43項目）とした。分析は、看護師のインシデント頻度に影響する人的要因を経験年数別に明らかにするために、看護師経験年数別（新人レベル：1年目、一人前レベル：2-3年目、中堅レベル：4-10年目、達人レベル：11年目以上）に多重ロジスティック回帰分析を行った。目的変数にはインシデント頻度、説明変数には「看護師のインシデントに関連しやすい勤務中の状況に関する質問紙」の質問項目から主成分分析によって抽出された変数を投入した。

【結果】

質問紙調査票は看護師1489名に配布し、そのうち773名から回収を得た。回答に欠損があったものを除き、最終的に716部（有効回答率48.1%）を有効回答として分析した。

質問項目から主成分分析によって抽出された変数は、4主成分（【不安全な業務遂行】【心理的ストレス】【身体的ストレス】【多忙な職務環境】）であった。

経験年数別の分析では、1年目においては、インシデント頻度には【多忙な職務環境】が有意に関連していた（ $p=.011$ ）。同様に、4-10年目においては、インシデント頻度には【心理的ストレス】、11年目においては【不安全な業務遂行】が有意に関連していた（ $p=.005$, $p=.001$ ）。2-3年目においては、回帰モデルは適合しなかった。

【考察・結論】

看護師のインシデント頻度に影響する人的要因は、経験年数によって異なることが示された。その相違点としては、1年目では多忙な職務環境であると感じていること、4-10年目では心理的ストレスがあること、11年目以上では不安全な業務遂行があることが明らかになった。この結果は、看護師のインシデントに対する経験年数を加味した組織的な対策を検討する必要があることを示している。

看護師の経験年数別の組織的な対策として、1年目では多忙さを軽減するサポート体制を改善すること、4-10年目では心理的ストレスが高い看護師に対する心理的サポートを改善すること、11年目以上では慣れに対するサポート体制を改善することが必要であると考えられる。